

滋賀県立総合病院 呼吸器内科は、塩田科長を中心に、スタッフ 4 人、シニアレジデント 1 人、非常勤医師 1 人の 6 人で診療を行っています。決して大きなチームではありませんが、気管支鏡検査の件数は、年々増加し 2017 年度は 401 件施行しました。そのほとんど全てを外来で施行しています。また、当院の大きな特徴として、気管支鏡検査で診断がつかないような病変には CT ガイド下生検（2017 年度 156 件、平均検査時間 17 分）を施行したり、胸水貯留例・胸膜病変に対しては局所麻酔下胸腔鏡検査（2017 年度 42 件）を施行するなど、気管支鏡検査以外の検査手技もバラエティーに富んでおり、そのすべてを我々自身で試行しています。また、数は多くないのですが、気管支ステント留置術、気管支腫瘍切除・レーザー焼灼術などの治療手技も、呼吸器内科が担当しています。肺癌以外でも喘息、COPD など気道疾患、間質性肺炎などのびまん性疾患などの慢性疾患から、肺炎などの感染症、呼吸不全に対しての人工呼吸管理など急性期領域まで呼吸器領域すべての分野において、「県内最後の砦」として診療を行っています。

これら一連の診療の流れをスムーズに進めるには、チーム内の連携が非常に重要です。当院は、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、リハビリ士、臨床工学士など、チーム内すべての人間が顔を付き合わせてコミュニケーションできる環境にあります。これは、ミドルボリウムである当院の大きな強みになっており、チーム内の雰囲気も非常に良好です。

仕事に疲れた時には琵琶湖の景色に癒されながら、近江牛を魚に仲間と酒をかわすのもいい気分転換になります。滋賀県で働いてみませんか？皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

以下は、滋賀県と当院の自慢を写真に載せます。

図 1 琵琶湖大花火大会

図 2 呼吸器病棟の送別会（後列右から三番目が筆者）

